

文部科学省  
大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）

研究成果途中報告

平成30年4月17日

代表大学 関西学院大学

①

# JAPAN e-Portfolioに搭載予定の項目について



① 「探究活動」に関する項目

② 「探究活動**以外**」に関する項目

- ・ 部活動
- ・ 生徒会活動

搭載項目(観点, 規準, 基準)  
を研究開発する

## ② 「主体性等」を評価するための基準・尺度の調査・研究、開発のデザイン

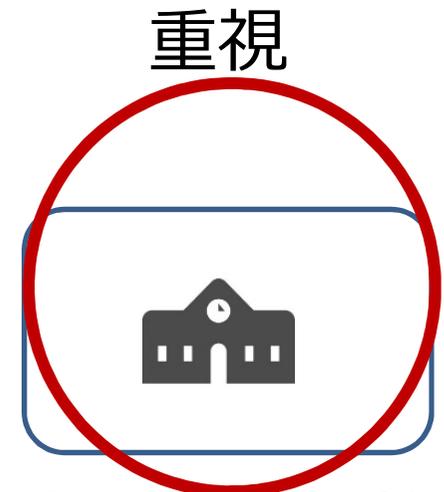
### ① 「探究活動」に関して収集するデータ



先行研究



検討



重視

教育現場の現状



③

「主体性等」を評価するための基準・尺度の調査・研究、開発のデザイン

## 研究全体のデザイン

### ① 高校・大学・企業対象の研究



データ分析・先行研究とのすり合わせ

### ② SGH甲子園対象の研究 (探究活動の成果発表の場)



分析結果とJeP搭載の可能性検討

### ③ “主体性×大学入学者選抜”研究グループ<sup>o</sup> (仮称) による検証

#### ① 高校・大学・企業対象の研究

高校教員，大学教員，企業人事担当を対象に質問紙調査を実施

#### ② SGH甲子園対象の研究

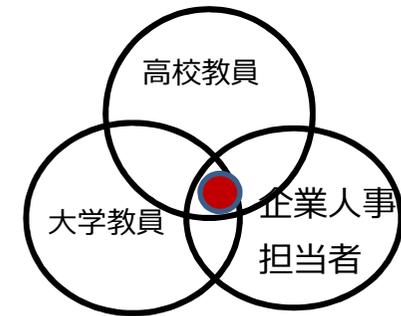
SGH甲子園2018出場校を対象に質問紙調査を実施

#### ③ “主体性×大学入学しや選抜”研究会による検証

全国の国公立大学の研究者及び公私立高校教員で組織予定

**(1) 高校教員を対象とした主体性に関する調査の実施**

- ・ 探究活動 = SGH/SSHにおける課題研究と設定
- ・ 全国のSGH/SSHに採択されている**347校**を対象に質問紙を配布 (SGH=179校, SSH=203校, SGH&SSH=35)
- ・ Q = 課題研究において, 生徒のどのような行動をみた時に主体的だと判断しますか
- ・ 行動とその詳細に関する回答を (可能な限り) 記述形式で求めた
- ・ 回答数145校 (39.5%) **1250名**

**(2) 大学教員を対象とした主体性に関する調査の実施**

- ・ 正課の授業を対象
- ・ 全国の国公立大学及び本事業に関連する私立大学**225校**を対象に質問紙を配布 (国公立=167校, 私立=58校)
- ・ Q = 正課の授業において, 学生のどのような行動をみた時に主体的だと判断しますか
- ・ 行動とその詳細に関する回答を (可能な限り) 記述形式で求めた
- ・ 回答数108校(48%)**699名**

**(3) 企業人事担当を対象とした主体性に関する調査の実施**

- ・ 入社1～3年目に対する印象に設定
- ・ 全国の一般企業 (公務員除く) の人事担当を対象に質問紙を配布 (n=207名)
- ・ Q = 入社1年～3年目の社員の業務に関するどのような行動をみた時に, 主体的だと判断しますか
- ・ 行動とその詳細に関する回答を (可能な限り) 記述形式で求めた
- ・ 回答数207名 (100%) **207名** \* (株) マクロミルに委託

**(1) 高校教員が考える探究活動（課題研究）における主体的だと考えられる行動の例**

- ・ 他者と積極的に意見交換をする
- ・ 生徒自身によるテーマ設定
- ・ 課題研究のプロセスを生徒自身が常に臨機応変に変更する
- ・ 発表の場に参加する
- ・ 発表の場において質疑応答を適切にこなすことができる
- ・ 学外の人たちへのコンタクト，実際の連絡やインタビューの実施等
- ・ 授業外の自主的な活動

**(2) 大学教員が考える正課教育における主体的だと考えられる行動の例**

- ・ 学生が課題に対して、他の学生と進んで議論している
- ・ 講義中に、板書の内容に疑問が生じて質問をするとき
- ・ 研究室に質問を
- ・ 指示していない
- ・ 実験計画を提案してきたとき
- ・ 学外での企画に参加

高校，大学，企業で共通する項目がJeP搭載項目候補になる

**(3) 企業人事担当が考える新任社員の業務に関する主体的だと考えられる行動の例**

- ・ 自分の意見が言える
- ・ 自分の企画を上司に提案している時
- ・ 言われた事以上のことをやる
- ・ 1 教えると色々推測して10質問してくる
- ・ 自ら積極的に行動する

**(1) SGH甲子園出場校の生徒415名のうち、407名を対象に質問紙調査を実施。128名から回収(31%)**

- ・大会出場やテーマ決定, 活動形態, 教員との関わり, 学びがい, 社会との関わりに関するデータ収集
- ・社会考慮尺度(齊藤1999) \*心理測定尺度集V:pp308に関するデータ収集
- ・ディスカッション中の発言数や内容, ジェスチャー等(動画・音声) \*ただしRTディスカッション参加者のみ

**◎SGH甲子園出場に関する意思決定**

- ・生徒自身による決断 = 81(63.3%), 教員による決断 = 47(36.7%)

**◎課題研究で取り組むテーマ決定**

- ・生徒自身による決定 = 97(75.8%), 教員との協働による決断 = 25(19.5%), 教員による決定 = 6名(4.7%)

N=128,  $p < .01^{**}$

**◎学びがいと教員とのコミュニケーションの関係性**

- ・課題研究への取り組みで得る「学びがい」と取り組みにおける「教員とのやり取り」は有意に正の相関関係  
(相関係数 = .409) \*\*

**◎学びがいと学外交流の関係性**

- ・課題研究への取り組みで得る「学びがい」と取り組みにおける「学外との交流」は有意に正の相関関係  
(相関係数 = .301) \*\*

**◎学びがいと社会を考慮する態度(14変数合成時の $\alpha$ 係数 = .922)の関係性**

- ・課題研究への取り組みで得る「学びがい」と取り組みにおける「社会を考慮する態度」は有意に正の相関関係  
(相関係数 = .322) \*\*

**◎学校外交流と社会を考慮する態度の関係性**

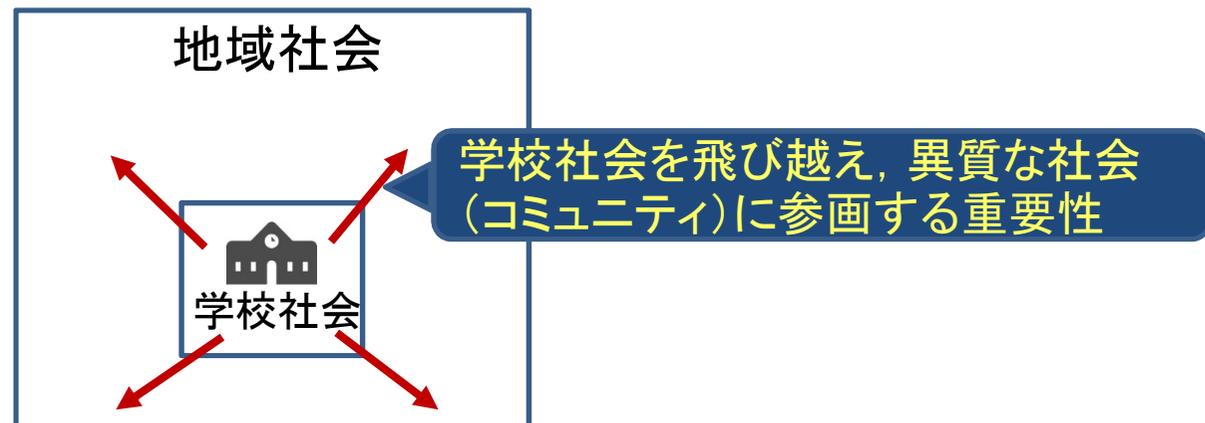
- ・課題研究への取り組みで経験する「学校外交流」と「社会を考慮する態度」の相関関係は確認できなかった

## 質問紙調査等から考察できそうな事

◎高校の教育現場においては、**Research Like Activity** (市川1996, 市川2016)を基本とした学習活動が展開されている可能性

**RLA**=研究者の活動の縮図的活動を学習の基本形態とする  
縮図的活動は本物の研究者の活動を学習者のレベルに合わせて模擬したもの

◎高校の教育現場においては、**Authentic Learning** (BURKE 2009) や **Service Learning** (FURCO & BILLIG 2001) と同様に、社会との接続が意識されている可能性



◎「主体性等」を評価するための基準・尺度の調査・研究、開発のデザインに関する補足資料

SGH甲子園において収集したデータの補足

・研究成果プレゼンテーションに出場した25校の担当教員を対象に調査を実施



課題研究の成績をつける際の評価対象物の例



評価をつけるための形成的評価に利用している具体的な正課物のデータをPDFで収集

高等部1年次 授業『知の探究』提出物 1部目/全1部

知の探究

私の研究デザイン

10年 組 19番 NAME \_\_\_\_\_

\*もう少しで「知の探究」は終わりです。今の段階での、自分の研究デザインのあらましを設計図にしておこう。  
\*フィールドワーク後、「R&F」の授業で研究デザインを確定させ、さらにその次の学期で論文を完成・提出します。

Research Question (Why & Effect) \*「トピック」ではありません

武装解除の後の社会復帰が進まないのはなぜ? 元自衛隊員? 支援が必要?

主張(要約) ①結論(仮説・予想): 社会の中で社会復帰の場がなくなっている。  
②根拠(簡単に): 社会はたかさんのグループの存在だけで済む場合が多い。

0. 研究の趣・基本事項のチェックと宣誓署名...OKの場合、□にチェックを入れる。
- ペーパーの主張も、ペーパー作成のための作業も、ともにすべて自前・自作の作品で創ります。
  - 本やネットにある他人の作の文章を直接引用または要約引用した場合、引用であることをすべて示します。
  - 用いたすべての資料(画像や図表なども含む)について、参考文献一覧表に示します。
  - Wikipediaなど著者不明の資料からの引用や、専門家でない人の作った資料からの引用はしません。以上4点のチェックに間違いはありません。
- 署名 Signature \_\_\_\_\_ (自筆)

1. リサーチの分野...SGHの研究カテゴリのうち、自分の研究があてはまる分野にチェックを入れよう。
- (カテゴリI...社会科学)より平和な国際社会の建設...国際関係(国際法、国際政治・経済、国連・国際機関など)、

III. これからのスケジュールの確認

- A. フィールドワークへの参加 2016年度 11月 ...フィールドワーク名 国際看護大 (1)(2)
- B. R&Fの授業に登録する学期 2016年度 冬学期
- C. 論文を完成・提出する学期 2017年度 春学期  
~夏(秋学期初め)

\*留学予定、受けたい研究指導の内容、など、特に希望や事情がある場合、記してください。

紛争を和解させた後の兵士の中心や元兵士の雇用先での問題を特に知りたい。

IV. 私の研究でもっとも主要となる参考文献(少なくとも一冊見つけよう)

著者名 瀬谷 礼子 文献名 職業と武装解除  
 出版社 朝日新聞 出版年度 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月

\*この文献を主要な参考文献とする理由

世界の第一線で活躍している人の体験談でなる事。国連・外務省・NGOをすべて経験した礼子さんの比較が面白い。

元自衛隊員? NGOの活動から、具体的な事例を入手したい。この!というものを入手したい。(LCCO)

Origin(s) 瀬谷礼子(日経青年防衛センターの理事長)

Purpose(s) たかさんの人に現地へ赴いてもらう。

Value(s) たかさんの事例が探せたい?

Limitation(s) 礼子さんの1人インタビュー。もっと必要に感じ。



### ◎研究会の趣旨

「大学入学者選抜における主体性の評価」を主のテーマとし、学術的な議論をするための研究グループを立ち上げる。名称は現在検討中である。この研究グループは、本委託事業が終了するH31年3月以降も継続し、我が国における大学入学者選抜の改革に寄与する知見の創造と共有を目指す。

本研究グループは、草案を作り上げる（1）コアメンバーと（2）アドバイザーメンバー、（3）スーパーバイズメンバーの3つで構成されている。

### ◎H30年度研究会の活動予定

- ・平成30年度中、3回の研究会を開催する。
  - ・開催は、6月、10月、3月を予定している。
  - ・場所は、関西学院大学大阪梅田キャンパスを予定している。
  - ・研究会の内容は、主にコアメンバーによる草案の共有及びそれに対するアドバイザー、スーパーバイズメンバーからの意見収集である。
  - ・草案の内容は、JePに搭載する項目と主体性評価の関連性を中心とする。
  - ・具体的には、年度終了時に下記のようなアウトプットが完成している事を想定している。
- 
- ・初年次教育学会全国大会会員企画シンポジウム（9月5日・6日 於：酪農学園大学）  
企画者：時任隼平  
登壇者：時任隼平，調整中
  - ・日本教育工学会全国大会会員企画ワークショップ（9月28日 於：東北学院大学）  
企画者：時任隼平，調整中  
登壇者：時任隼平，調整中

## ◎成果物のイメージ

搭載項目	利用可	利用不可	判断不可	修正に向けたコメント
項目A	7/12	5/12	0/12	*****
項目B	9/12	1/12	2/12	*****
項目C	2/12	10/12	0/12	*****

- ・調査研究から明らかになった項目が、**実際の入学者選抜でどの程度利用可能**かどうか研究者に判定してもらう
- ・学問的見地及び現実性の観点から、**利用の有無**、**修正に向けたコメント**を収集する



- ・結果を広く一般に公開する
- ・修正可能性のある個所を、具体的にどのように修正するのかを考察し、その結果も一般に公開する



実証的・学術的根拠に基づいた搭載項目の検討

13

# ICTを活用し「主体性等」を評価する「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」

高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」(文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業(主体性等分野)の成果②)

- 大学入学者選抜に活用できる仕組みを目指し、各大学・高校の協力を得て2017年10月2日に開設した高校eポートフォリオ・大学出願ポータルサイト。
- 生徒が主体性等に関わる諸活動を1年次より「JAPAN e-Portfolio」に記録し大学出願時に活用する。
- 大学入学者選抜において、学力の3要素、とりわけ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を適切に評価し、多面的・総合的評価の実現に貢献することを目指す。
- 平成30年度に入学試験等での実証事業を実施。(3月15日付での実証事業参加大学は70大学、高校生徒12,000名)



# ICTを活用し「主体性等」を評価する「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」

## 高等学校教育改革

- 生徒：「学びのデータ」の記録・振り返り、自らの学習活動を振り返り自己学習につなげる主体的な学び。



学びのプロセス、成果、気づきの入力（スマートフォン・タブレット・PC）  
（エビデンスとなる証明書類を添付）

「振り返り」・「メタ認知」⇒ 自己学習へ

対話



生徒の入力内容の閲覧・承認

データ参照⇒生徒の活動・理解の把握⇒授業改善

- 教員：「学びのデータ」の参照により、生徒の活動、生徒の理解度を把握し、生徒指導、授業改善・カリキュラム改善に

- 平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直し予告への対応

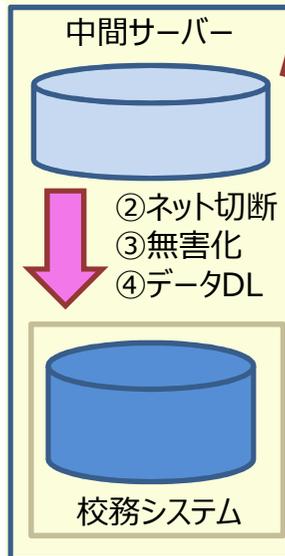
- ➔「学習指導要録」作成の基本情報「調査書」「推薦書」「提出書類」作成に活用
- ➔「主体性等」を評価する入学試験での活用
- ➔「入学前教育」での活用

- 平成34年度新学習指導要領への対応

- ➔教育の評価と指導方法の見直しへの活用の期待（カリキュラムマネジメント）「学びの成果の可視化」
- ➔「主体的、対話的かつ深い学び」「探究」の促進への期待
- ➔「キャリアパスポート」のデジタル化への期待

- その他

- ➔教育委員会、文部科学省等への報告のための基礎データ
- ➔調査書デジタル化のプラットフォームとしての期待



JAPAN  
**e-Portfolio**

高大接続ポータルサイト

学びのデータを見る

①データDL（ダウンロード）

- 資格・コンテスト・大会情報などをコード化  
大学・高校でコードを共有し調査書のデジタル化・デジタル活用のために
- ログイン機能によりデジタル調査書の電子認証
- 民間ポートフォリオ・SNSとも連携  
生徒の二重入力の手間を軽減
- 検定・資格実施機関、大会運営機関と連携し、  
生徒の入力情報とのマッチング（教員の負担軽減）
- 大会・コンテスト情報のデータベース（平成33年度大学入学者選抜実施要項見直しへの対応）

https://jep.jp/EPortfolio/list/list.html?P

探究活動

基本情報1

授業科目

総合的探究の時間

研究テーマ

水資源についての考察

研究目的・内容

国連によると、工業化、環境破壊、水の浪費、人口増加が新鮮な水の供給の妨げになっています。水不足はすでに様々な国々の間に緊張関係をまねいています。2025年に、世界の人口の3分の1が、水不足に悩む状態になっていると予測しています。そのほとんどが中東、アフリカの東部や南部、インドの西部や南部、中国北部といった、発展途上国の人々になりそうだといえます。国際的な課題でもある水資源の問題について考察します。

テーマを選んだ理由

人間が生きていくために必要な水。日本では蛇口をひねれば飲むことのできる新鮮な水が出てきますが、これは世界的には当たり前のこととは言えないと学び大変興味を持ちました。水資源の問題について学び解決の方法を考えたいと考えテーマとしました。

開始日

2017年05月08日

開始日

2017年05月08日

終了日

研究のふりかえり・今後に活かしていきたいこと

基本情報を修正

基本情報を削除

学びのデータ一覧

2017年07月26日～2017年07月26日

神戸市水道局上ヶ原浄水場

2017年06月06日～2017年06月07日

水資源をかんがえる(「資源」の本)大型本

学びのデータを追加

新たな基本情報を追加



JAPAN  
e-Portfolio

MENU

探究活動

学びのデータ入力・編集

学びのカテゴリ

選択してください

選択してください

参考文献（書籍・論文等）

実験

研究室訪問

フィールドスタディ

調査

論文

発表の記録

コンクール・コンテスト・大会の結果

## JAPAN e-Portfolioの特徴

- 出願時の3年次ではなく1年次から入力を開始する。
- 入力項目は、「探究活動」「生徒会・委員会」「学校行事」「部活動」「学校以外の活動」「留学・海外経験」「表彰・顕彰」「資格・検定」を設けている。特に探究活動については、重点化を図る。
- 全ての項目について、「振り返り」「気づき」に関する入力領域を設けている。
- それぞれの項目で、エビデンスとなる画像データ、プレゼンデータ、論文データなどを添付できるように配慮している。
- 資格・検定については600種類を搭載している。※進学多様校でも活用可能。
- 英語検定試験については、4技能に対応。
- 生徒はスマートフォン、タブレット、PCから入力可能。
- 閲覧する側（教員）は定められた校内のPCのみから閲覧可能。PDFで出力を予定。
- 校務システムとのデータ連携を予定。要録の参考資料等での活用。
- データは最終ログインから5年間保持。
- 実証事業を通じて、項目や機能の見直しを実施。

市川伸一（1996）学びの理論と学校教育実践．学習評価研究26

BURKE KAY（2009）How to Assess Authentic Learning Fifth Edition.CORWIN

FURCO ANDREW, BILLIG SHELLEY H（2001）Service-Learning: The Essence of the Pedagogy. INFORMATION AGE PUBLISHING

市川伸一（2016）習得・活用・探究とアクティブ・ラーニング．教育課程研究会(編)アクティブ・ラーニングを考える．東洋館出版社

堀洋道（2011）心理測定尺度集Ⅴ－個人から社会へ＜自己・対人関係・価値観＞－．サイエンス社